
西通りを直進してまっすぐ。

著莪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

西通りを直進してまっすぐ。

【著者名】

ZZマーク

N9183S

【あらすじ】

西通りは商店街。近所に高校。5分で駅。すぐ隣には住宅地。いろんな人がいるのです。

そこじょの

藤付市、左町。

の、中央ちよい西側を南北に走る西通り。

の、南の端の方にある、建物に囲まれた緑化地。ちよつとした公園。

の、すぐ近くにある、ちよつとしたお店。

「コーヒーが美味しいその店は、私の行きつけだ。カバンを肩に、今日も向かう。部活が終わった放課後。家への道を通りすぎて。

がらら からんからん。

「…………いらっしゃい…………」

「マスター」

注文は短く簡潔に、わかりやすく。

「こつもの、お願

「だからこれは総菜屋だ」

間。

いわゆるプロローグ。

「人間は常として、何かにすがつて生きています。助けがないと生きてゆけません。助け合わないと、生きてゆけません」

前の席の女子が喋りだした。が、俺に向かつて喋っているわけではない。見た限り独り言である。

昼休み。高1・2。俺が自分の席で購買のパンを開封した、突如のこと。

「そう、助け合いの精神、隣人愛。イエスキリストはそれにいち早く気づき、この当たり前のこと……当然ゆえに考えず、気づかないけれど、とても重要なことを、大勢に説きました」

女子は机に向きあつたままうつむき、何かを必死に作業している。手を動かしているから、手芸か何かだろうか。長い黒髪と背中で手元が隠れ、よく見えない。

「たとえば、漢字を見ると、人という字は、誰かに支えられるように作られています。誰かの助けで成り立つていています。たとえば、クマノミとイソギンチャクは、外敵から守られつつ住処を提供しつつという助け合いの関係で、海を生きています」

まあずいぶんと饒舌。

「人間だけではないでしょう。すべての生きるものは、相互関係によつて生きてゆくのです。そして北郷さん、あなたも何かの助けを借りて、今ここに座つていいのは必ずです」

……俺に話しかけていたらしい。

まあ、今の休み時間、彼女の周囲には俺しかいない。うすうす察してはいたが。

とくに言つこともない。耳は傾けつつ、コッペパンをかじる。

「家族の助け、塾の助け、国の助け……。そして何より、友人の助け。一番わかりやすい、助け合いの典型的な構図。それが友人との助け合いだと私は思います」

どうでもいいがこれ、宗教勧誘じゃないだろ？な。北郷家は知らないが俺は無宗教だ。

「話は変わりますが言葉を交わせば友達つていつじゃないですか？」
「いいますよね？」つまり私たち友達ですよね？だからつー！」

突然、女子は勢いよく振り向いた。

そしてにつこり。

「パンをわけてくださいますか？」
「のーあいきやんと」
「なぜですかあ！！」
「なぜですかあ！！」

出席番号9番喜瀬嘉望は、俺の机に打ちひしがれた。

「俺の机をバンバン叩くな。突つ伏すな
「せつたいどきませんすとらいきです」
「あーあーわかったよ。バンバンじゃなかつたなバンつて一回だつたなすまんねさあどけ」
「そーこーじやなーいー…」
「じゃん、けん」
「ほん」

グー対パー。喜瀬の勝ち。

どうでもいいが、長い黒髪が放射状に広がり机の上が真っ黒だ。
若干うつとおしい。

「ほいよ。やるからとつとと退きなさい」

顔を上げた喜瀬の目が鈍く光った。獲物を狩る目だ。

んな目はせずともコツペパンは逃げない。

がばあと喜瀬がパンに飛びつくのに0・3秒、袋がすでにあいていることを確認しパンにかぶりつくるに0・2秒、むしゃむしゃごくりが1-1秒。喋れるようになつて一言。

「……男に一言はないですね？」

「一言を継がせる余地がないな」

「ならよろしく」

「よろしくなによ」

喜瀬は再び食べ始めた。かぶりつくような早食い。

パンは二袋あるが、喜瀬がこっちにかぶりついてしまったのだから仕方がない。

黙つて捕食活動を眺める。

……だからあせらなくてパンは逃げないって。

こんばんは。

短い話の連続にありますので、これは次話には続きません。
続きます。

コラッペパンよりメロンパンが好きです。

- 「ねえねえ祐人くん」
「なんだい紗代ちゃん」
「リープ21の『リープ』ってなんだろ?」
「リープ?」
「リープ。」
「うーん、『LEAVE』かなあ」
「旅立つの?」
「21本旅立つちゃうかー」
「さよならいおーん」
「多分違うかもね」
「多分?」
「でも髪の毛つて毎日抜けてるんじゃないっけ」
「あー数十本だっけ」
「毎日抜けて毎日生えるとか」
「そんなシステムもありましたなあ」
「ありましたねえ」
「でも生えないから減るんだよね」
「出発だけする、と」
「あくせられーた」
「見送つて終わりかあ」
「『送つて別れて、もつそれで終わり』……悲しぃやつ」
「主語は?」
「たんぱく質が」
「髪がか」
「その呼び方……神様みたいで好きじゃないの」
「知りませんよ」

「知らない」と思つたので今知らせました

「ところで今調べたなんですがね」

「ケータイですか」

「文明の利器すごい」

「21世紀ばんざーい」

「leave」という単語には、複数意味があるのですね

「あるねえ」

「そのひとつ」、『その場に残す』という意味もあるのですよ
「まつまつ」

「荷物を置いて手洗いへ行く、とか」

「傘を置き忘れるとか?」

「髪の毛は忘れ物じやないよ」

「三本の長い友達ですね」

「あと、子供を残して買い物へ行く、とか」

「子供を残して冥土へ行くとか?」

「さよならいおんじやないよダメだよ」

「先回りされました」

「とにかくリープには、物を残すという意味があるそうですね
「なるほど、送つて分かれてじゃないのですね
「経営内容見ればそりや そうだとしか
「送つて別れてじゃんけんぽん」

「ぐー」

「ちょき」

「突然だね」

「負けた……」

「荷物持ち」

「さんま!」

「のつてあげよつとも」

「送つて別れてじゃんけんぽん!」

「ちょき」

二二

また負にた……」

תְּבִ�ְרָה

1054

「だからなにそれ

「にやああああああああああああー。」

ほしハウ・持主

批否稿本

三

「而後人之徒

「拒否権の拒否を拒否します」

「一人一日一回まで」

おしゃれ

中華書局影印
新編全蜀王集

「泥棒です」

「勝てない！」

高校生の会話

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9183s/>

西通りを直進してまっすぐ。

2011年5月29日23時10分発行